

つがる相撲クラブが全国優勝 第8回全国少年相撲選手権大会



上) 左から越後谷知樹君(木造中1年)、田中界渡君(向陽小6年)、菊地新君(同5年)、小関拓道君(柏小4年)、鳴海匠馬君(育成小3年)
下) 両国国技館の土俵で記念撮影



10月30日、両国国技館で行われた第8回全国少年相撲選手権大会で、つがる相撲クラブA(越後谷清彦監督が初優勝を飾りました。同大会は、全国の少年相撲クラブの日本一を決めるもので、全国から82チームが参加。つがる相撲クラブAは、予選を2勝し32チームで行われる決勝トーナメントに進出。トーナメントでは接戦を勝ち進み、決勝戦では栃木のおたわら修志館Aを3対2で破り、見事全国の頂点に立ちました。

選手たちは11月1日、福島市長に優勝を報告。「日本一になって本当にうれしい」などと一人一人充実感に満ちた表情で感想を述べ、越後谷監督は「強豪ばかりではうらやましいが、一戦ごとに成長していった」と大会を振り返ると、福島市長は「本当によくやってくれた。今度は追われる立場となるが、これからも稽古に励んでください」と健闘をたたえました。

つがるちゃん、食の大切さ学ぶ

「つがるちゃん豚汁」が
学校給食に登場



稲垣小学校の給食時間につがるちゃんが登場



野菜の栄養について学ぶ稲垣西小学校の児童

市栄養教諭・学校栄養士部会は、地産地消を進めるため、市ブランド農産物のナガイモ、ゴボウ、ネギなどの具材が入った「つがるちゃん豚汁」を学校給食のメニューに取り入れ、11月17日から29日にかけて市内全小中学校の生徒児童が味わいました。

17日、稲垣小学校の児童たちは地元食材がふんだんに入った豚汁を食べ、岡本佳也君(2年)は「今まで給食で一番おいしい」とおかわりをしていました。

また、同日、稲垣西小学校に、市栄養士とつがるちゃんが訪れ、3、4年生を対象に食育の授業が行われました。児童たちは、ナガイモが地中になる様子やゴボウ・ネギに含まれる栄養などをクイズ形式で楽しく学び、市の農産物や食の大切さについて理解を深めました。